学校保健

JAPANESE SOCIETY OF SCHOOL HEALTH

平成13年9月1日　No. 238

(財)日本学校保健会ホームページアドレス
http://www.hokenkai.or.jp/

(財)日本学校保健会

健康教育の推進について

文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長
惣　脇　　宏

平成14年度から完全学校週5日制が導入されるとともに、新しい学習指導要領が小・中学校及び高等学校において順次実施されるなど、学校教育は新たな時代を迎えようとしています。このことにより、学校は今後とも主要な役割を担うこととなりますが、児童生徒の家庭や地域で過ごす時間が多くなることから、家庭・地域社会と一層連携を図り、たくましく生きるための健康や体力を育成することが重要です。

しかし、近年の児童生徒の心身の健康問題をみますと、薬物乱用、性の逸脱行動、肥満や生活習慣病の兆候、いじめや不登校などといった課題が指摘されるとともに、児童生徒が被害者となる痛ましく決して許されない事件や事故など、非常事態が発生した場合の心のケアについても問題となっております。

このような状況の下、心身の健康問題の解決を図るためには、疾病予防や不安・ストレス解消を図るのはもちろんのこと、運動・栄養・休養・睡眠がともに調和のとれた生活習慣をはじめ、健康の価値の認識及び自分自身を大切にする態度、ストレスへの対処法等の知識を身に付け、健康に良くないことを自ら断つことのできる実践的能力などを身に付ける必要があります。そのためには、学校における健康教育により、健康に関する正しい知識・理解をもち、健康にとって必要なことがらを実践していくことが大切です。

今、学校における健康教育で求められることは、体育・保健体育の時間はもとより、道徳・特別活動・総合的な学習の時間など学校の教育活動全体を通じて、日ごろから心身の健康に関する指導を計画的・継続的に指導することと、家庭や地域社会との連携をより一層図り、児童生徒が生涯を通じて健康な生活を送るための基礎を培うことです。

文部科学省としましては、児童生徒の心身の健康に関する課題解決に向けて様々な施策を講じていくとともに、財団法人日本学校保健会の御協力のもと、各種調査研究及び参考資料等を作成していきたいと思います。健康教育関係の皆様方には、今後とも、学校における健康教育の充実のために、御尽力賜りますようお願いいたします。

終わりに、財団法人日本学校保健会のますますの御発展と今後の学校保健の充実・発展に寄与されますことを御期待申し上げます。

目　次

巻頭言
健康教育の推進について …1
第52回十三大都市学校保健協議会 …2
第23回近畿学校保健連絡協議会 …3
第47回中国地区学校保健研究協議大会 …4
第1回九州地区健康教育研究大会 …5
第36回東北学校保健大会 …6
第14回四国学校保健研究大会 …7
第52回関東甲信越静学校保健大会 …8
平成13年度全国養護教諭研究大会 …9
全国学校保健主事研究協議会 …10
Q&A …11
虎の門（60） …11

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。FAXでお寄せください。

乞御回覧	校　長	教　頭	保健主事	養護教諭		PTA	会　長	副会長	

21世紀を生きぬく「元気な子どもたち」の育成へ
～第52回十三大都市学校保健協議会　横浜市で開催される～

横浜大会事務局

平成13年5月13日（日）標記協議会横浜大会が、港を一望するパシフィコ横浜会議センターを会場に、1,000人を越える参加者を集めて開催された。

同協議会は、政令指定都市12市に東京都を加えた13都市の学校保健関係者が、当面する健康・安全の諸問題を研究協議し、学校保健の進展を図ることを目的に、毎年持ち回りで開催しているもので、今回の協議主題は「21世紀を自らの力で元気に生きる子どもを育む、学校保健の新たな展開」。

午前10時からメインホールで開会式及び全体協議が行われたあと、東京大学大学院（身体教育学専攻）の武藤芳照教授が「子どものからだとこころを育む」と題し記念講演。子どもが自分の体のしくみを知り、正しいトレーニングにより運動の質・量のバランスを取りつつ体力を向上させていくことの大切さ等さまざまな話題について、具体的で豊富な事例と、テンポ良くユーモラスな語り口で話し、幅広い参加者の感銘を誘った。

続く記念事業では、横浜の子どもたちの元気な姿を参加者に見てもらおうと、市立小・中学校から各1校ずつが登場。まず、千秀小学校の児童及び卒業生21名による創作劇「大切な友だちって何だろう」。2年間にわたる学校保健委員会の活動を基礎に、校内及び校外での上演を積み重ねてきたが、パシフィコ横浜のような大舞台は初めてということもあり、出演者は元アナウンサーの発声指導を受け、保護者や卒業生のいる中学校の協力のもとに厳しい朝練習を重ねるなどして、本番に臨んだ。結果は大成功。子供たちの素直な演技が劇の内容をストレートに客席に伝える効果を生み、思わず涙ぐむ人もいたほどだった。

続く老松中学校の生徒による総勢60名の舞踊団は、華麗、勇壮。古くから横浜・野毛地区に伝わる「ノーエ節」と「ソーラン節」とを現代風にアレンジした「野毛山ソーラン」をこれも自分たちで振り付けした、異なる2つのバージョンで披露した。舞台いっぱいに繰り広げられた豪華な踊りの輪に、満場をすっかり魅了した。

午後は、4会場に分かれて課題別協議会が開かれた。「健康教育」・「保健管理」・「精神保健」・「地域保健」の各分科会では、各都市の代表者からそれぞれ8つの口頭及び紙上提言がなされ、これらを受けて非常に活発な意見交換が行われた。とくに、近年大都市を中心に深刻化している薬物乱用、いじめや自殺、不登校、性の逸脱行動など、子供たちの「問題行動」の多様化と低年齢化を背景とした、心の健康問題に関する研究成果の発表には、多くの参加者の関心が集まり、質疑応答が続いた。

以上のように、大きな成果を上げた本協議会だったが、一方で東京都の今年度限りでの退会が正式決定されるなど、時代の流れに沿ったこうした会議のあり方について、今後の運営への課題も残した。

なお、本協議会に合わせて開かれた医師会及び歯科医師会主催の前日協議会でも、内容の濃い研究協議や情報交換が行われ、有意義な時間が持たれていた。

第23回近畿学校保健連絡協議会

兵庫県学校保健会

標記協議会は、「近畿の学校保健関係者が一堂に会し、当面する諸問題について連絡調整並びに研究協議を行い、学校保健の推進を図るとともに、近畿学校保健連絡協議会及び日本学校保健会の発展に寄与する。」を目的に掲げ、平成13年7月12日、兵庫県医師会館において開催された。

まず最初に、近畿各府県市の代表により、要望事項とその提案理由が発表され、続いて研究課題の提案がされた。その概要は以下のとおりである。

【要望事項】

1　養護教諭の複数配置と基準の見直し

2　保健室・相談室の施設・設備の充実
- ◆保健室の備品等の整備・充実
- ◆相談室の設置と人材確保

3　健康診断の充実
- ◆心臓検診の小学校4年生実施
- ◆予防接種の接種率低下防止策の検討

4　健康教育推進のための体制づくり
- ◆保健主事が職務を十分遂行できる校内体制づくり
- ◆養護教諭が保健学習をする体制づくり
- ◆スクールカウンセラーの全校配置や学校医に精神科医を加えること
- ◆学校保健情報のネットワーク化の推進
- ◆盲・聾・養護学校生徒用エイズ教育・薬物乱用防止推進教育のための視聴覚教材の作成配付
- ◆「健康相談活動支援体制整備事業」の定着化
- ◆紫外線対策についての指導指針の策定

【研究課題】

1　学校保健委員会の充実と今後の展開
- ◆組織の活性化・弾力化について
- ◆学校医等との連携について
- ◆保健主事・養護教諭の果たすべき役割について

2　健康で豊かなライフスタイルを確立するための健康教育のあり方について
- ◆児童生徒の発達段階に則した健康教育のありかたについて
- ◆健康教育における学校医等のかかわり方について

【研究課題についてのグループ協議】
- ◆時間の関係で各グループとも協議題1「学校保健委員会の充実と今後の展開」についての協議にとどまった。

内　容

(1) 学校保健委員会の現状は、「形式的なものになっている」「組織化が十分にされていない」「地域差・学校差が大きい」「学校側の体制が不十分である」などの意見が出された。

(2) 今後の展開については、「学校から三師会へ、三師会から学校への働きかけを綿密にする」「計画的な委員会の開催を図る」「管理職や養護教諭の熱心さが大切である」「保健主事の果たす役割が大きい」「地域や保護者への働きかけが大切である」などの意見が出された。

- ◆約1時間の協議であったが、終了の連絡をしたときには「もう終わりか」という表情さえ伺えるほど熱心な協議が行われた。
- ◆学校保健委員会の充実が必要であることは、誰もが認めていることであり、その充実のためにいかにすべきかについて互いが感じていることを率直に話し合える「場」を作っていくことの重要性を痛切に感じた。

最後になりましたが、本会を開催するにあたり、日本学校保健会をはじめ、近畿各府県市の教育委員会及び学校保健会関係各位に心から感謝申し上げます。

なお、来年度は京都府において第24回近畿学校保健連絡協議会が開催されますことを申し添えます。

第47回中国地区学校保健研究協議大会

鳥取県学校保健会

標記大会が、平成13年8月2日・3日に鳥取市県立県民文化会館を主会場として、約550名の参加により盛大に開催された。

本大会の主題は「心豊かにたくましく、21世紀を生きる子どもの育成をめざして」～自ら実践する心や体の健康つくり～であり、この主題のもと、1日目は全体会・職域部会、2日目は6研究協議題で7分科会に分かれ班別研究協議会を行った。

鳥取大学教育地域科学部戸田有一助教授の「子どもたちのライフスタイルと心や体の健康つくり」と題した講演では、鳥取県における子どもたちの生活実態と健康に関する調査結果を踏まえ、生活実態が心や体の健康に影響を与えていることを指摘された。特に、分析の中途であるが、「朝食習慣と排便リズム」「夕食を家族で食べることと栄養のバランスを考えること」「様々な自覚症状と就寝時刻」「友だち・家族関係などの社会性と食生活」「放課後の家庭学習・スポーツ・手伝いなどをしないことと喫煙等の禁止されている行為をすること」が相互に関係していることが明らかになったことを話され、参加者は興味を持ち聴き入っていた。

職域部会の学校薬剤師部会では、「飲料水の衛生検査について」各県の情報交換が行われた。

校長・園長部会では、「鳥取県西部地震時の危機管理・心のケア」について被災地の学校長と巡回相談をされた臨床心理士からの報告に基づき、研究協議が行われた。

学校保健・安全担当教員部会では、「輝く心と体づくり―心と体を一体として―」と題した講演を聞き意見交換がなされた。

養護教諭部会では、「時代に即した養護教諭のあり方をもとめて」の主題のもと、各県からの発表、意見交換、指導助言が行われた。

2日目の班別研究協議会では、「保健安全教育」「性教育・エイズ教育」「学校環境衛生活動」「学校歯科保健活動」「組織活動」「薬物乱用防止教育」の協議題に、幼稚園（2園）・小学校（6校）・中学校（5校）・高等学校（4校）・養護学校（2校）から、幼児・児童・生徒が自ら実践する心や体の健康づくりについて研究発表がなされ、それに基づき活発な研究協議が行われた。同一協議題で、小・中・高等学校等発達段階に応じた取り組みを情報交換することにより、異校種の実践が参考になるとの意見が多かった。

また、8月5日には鳥取県米子市において中国地区学校医大会が開催され、学校医以外に鳥取県内の各学校にも参加を呼びかけ、約80名の参加者により有意義な大会となった。特別講演や各県からの研究発表があり、各学校での健康診断結果をもとにした研究発表等県内各学校からの参加者には興味深い内容であった。

このように、第47回中国地区学校保健研究協議大会が鳥取県において成功裡に開催できましたことは、日本学校保健会をはじめ中国地区各県教育委員会等関係各位の御協力の賜物であり、心から感謝申し上げます。本大会を契機として、本県健康教育の充実に取り組んで参りたいと考えておりますので、今後とも御指導をよろしくお願いいたします。なお、来年度は岡山市において、第48回大会が開催される予定となっておりますことを御案内いたします。

第1回九州地区健康教育研究大会

佐賀県実行委員会

これまで、九州地区において個別に開いていた、学校保健、養護教諭、学校栄養職員の研究協議会を統合し、第1回九州地区健康教育大会として、8月6日・7日の両日、佐賀市で約1,200名の参加のもとに開催された。

これは保健体育審議会答申に基づくもので、生活習慣の乱れや薬物乱用、性の逸脱行為など子どもの心身に健康をめぐる問題を総合的にとらえ、食教育や心の問題など多岐にわたる健康教育について意見を交わした。

大会は、シンポジウム、特別講演、課題別研究協議など二日間にわたり開催した。

この中から、シンポジウムの提言を紹介したい。

シンポジウム
—テーマ—　『豊かな心を持ち、たくましく生きる力を育む健康教育の推進』

「学校精神保健の重要性と子どもを取り巻く大人の役割」

宮崎医科大学心理学教授　鶴　紀子

思春期を迎えた子どもたちは、自立しようとするのに伴って不安定になり、傷つきやすくなる。

尊大さと劣等感、孤独を好む感情と仲間に入りたいという気持ちといった相反する感情の間で揺れ動き、アイデンティティー意識とそれが確立されない場合の無感情の間を行き来する。

その中で子どもたちは、自分を取り巻く大人の中に自己のイメージを見つけ、取り入れていく。従って、児童・生徒の心の健康問題にとって学校関係者の言動は重要になる。周囲を取り巻く大人がありのままの子どもを受け入れ、長所を見いだし、伸ばしていくことが必要になる。

そのために、教師や養護教諭がスクールカウンセラーや学校医、家庭と連携して、専門性を深めながら協力する体制づくりが求められている。周囲の大人が互いに信頼感を持って協力体制をつくると、子どもたちはその中で温かい人間性に気付き、自己への確信を得ることができる。

こうした教育環境づくりに向けて、学校関係者が他人を受け入れるゆとりを持つことが大事である。

「保健主事としての健康教育への関わり方」

沖縄県立名護高等学校教諭　大城　昭子

学校現場での健康教育の優先順位は、他の分野に比べ依然低いと感じる。しかし、社会の変化が子どもの心身にさまざまな影響を及ぼす中、学校保健を円滑に進めることは重要な課題である。

前任の本部高校では、保健に関する学習として、学校全体での喫煙防止学習や学年全体で実施するエイズ学習会の他、保健所や近くの看護学校と連携して沖縄県に初めてのピアカウンセリングを試みた。

ピアとは仲間を意味しており、大人や医師ではなく世代の近い者から性について正しく伝えようという試み。3年生全員を対象に、看護学校生がカウンセラーとなって妊娠、中絶から避妊用具の使用方法、性感染症などについて指導した。生徒は年の近い先輩たちの話なので受け入れやすかったようで、「学校の保健の授業より良かった」などの感想があった。

こうした活動の中で、健康教育を企画・運営していく役割としての保健主事の重要さを認識した。学校保健委員会を活性化させ、地域、職員と連携を強めていくことが必要と感じた。

「生徒の早期支援を目指した心の相談」

福岡県立明善高等学校養護教諭　樋口　洋子

保健室を訪れる生徒は年々増え、心的要因によるものも多い。明善高校では毎月一回、精神科医による「心の相談」を実施。養護と生活指導、担任らでつくる「早期対応委員会」で、学校不適応状態などになる前に生徒を精神的支援しようとしている。「心の相談」は校内で行っている。当初は精神科医にかかることへの抵抗感もあったが、引きこもりかけた生徒が助言で明るくなり、無事卒業するなど助けられた事例は多い「早期対応委員会」は教師が連携して生徒の観察・指導に当たるが、初年度の99年度は43人の生徒に対応した。

最近、「どうせ自分は駄目だから」という自己評価の低い子どもが目立ってきている。偏差値教育の下で「良い子」を演じて疲れ果て、引きこもりがちな彼らに、集団生活を通して人間関係の対応能力をどうつくっていくか。

待つ保健室の時代は終わり、問題を抱える子どもがどういう状況にあるか、早い段階から把握しておく必要が出てきていると思う。

「児童・生徒が生涯にわたって、心豊かにたくましく生きる力を育むための、食に関する指導はどのようにしたらよいだろうか」

長崎県外海町立池島小学校主任学校栄養職員　貞松　明子

池島小学校の児童には肥満や食べず嫌いの傾向が見受けられる。また、虫歯や未処置歯のある児童も多い。こうした中で月一回、噛むことの大切さを意識づけるメニューを入れるなど、健康な生活を培うための教材としての献立づくりに留意している。

また、長崎県では前年度から学校栄養職員の特別非常勤講師制度が取り入れられたので、家庭科で1単位ずつの授業を行い、学級活動でもチーム・ティーチングで食に関する授業を行っている。

一方、食事の喜びを理解させようと、余裕教室を利用してランチルームを開設し、異なる学年が一緒い会食する縦割り給食などを実施。弁当箱に詰めて屋外で食事をする野外給食も年2回行っている。

こうした食に関する指導は、子どもたち自身が健康管理できる実践力を育てることが目的。良くも悪くも、食の身体への影響は即座には表れないが、年間190回、日々繰り返す学校給食が単なる弁当の代わりとはならないよう、正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身につけさせたい。

第36回東北学校保健大会

岩手県学校保健会　会長　石　川　育　成

第36回東北学校保健大会兼平成13年度第37回岩手県学校健康教育研究大会が8月7日・8日の両日、盛岡市で約600名の参加のもと開催されました。

研究テーマを「イキイキと活力ある子どもの育成を目指して」―学校・家庭・地域が連携し合って生きる力を育む健康教育の推進―と掲げ、1日目は全体会、2日目は7分科会8テーマに分かれて実践発表及び研究協議を行いました。

本大会は、本県の研究大会も兼ねて開催することとしました。本県では、健康教育を幅広く捉え、さらに多角的に健康教育に取り組み子どもたちの健やかな成長に資するために、「岩手県学校保健・安全・給食研究大会」から「岩手県学校健康教育研究大会」と改め、学校健康教育の更なる推進を図ることとしました。

1日目の全体会の記念講演は、盛岡市在住の板谷英紀氏が「ヴァイオリンで宮沢賢治を語る」の演題で、宮沢賢治の愛した音楽をピアノ伴奏のもと、板谷氏自らヴァイオリンを演奏しながら紹介し、参会者も歌で参加するなど、和やかな雰囲気の中で宮沢賢治像をお話ししていただきました。

また、記念講演に引き続き行われた健康教育の実践発表では、本県二戸市学校保健会の取り組みを「心身ともに健やかな幼児・児童・生徒の育成を目指して」と題して、発表いただきました。

2日目の分科会では、各県から課題別実践事例を報告し要確認、参会者の情報交換を含め、質疑など活発な研究協議が行われました。助言者の的確な指導助言により健康教育の課題が明らかになりました。さらに、平成14年度からの完全学校週5日制の実施により子どもたちが学校を離れて活動する機会が増えることから、学校・家庭・地域が連携し健康教育に取り組むことへの重要性の認識を深めることができました。

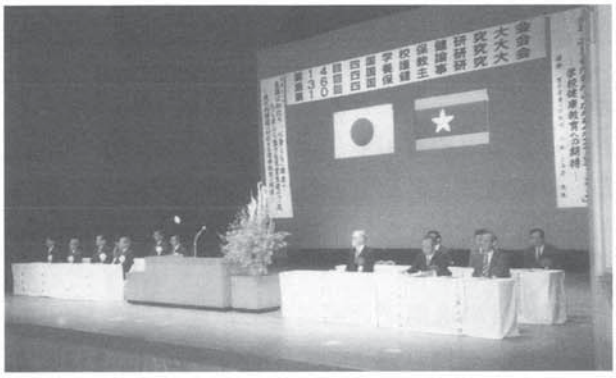
終わりに、本大会の開催に当たりまして、ご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

なお、来年度は、第37回大会を宮城県仙台市で8月に開催される予定です。

多人数のうがい励行に！
コロロ®自動うがい器
自動うがい器＋ウォータークーラー
●コンパクトで洗練された一体型デザイン　●うがい薬コロロ®B.I.B容器を採用
●マイコンで自動洗浄・データ管理　●各種オプションを用意
サラヤ株式会社
大阪市東住吉区湯里2-2-8
0120-40-3636
ホームページ http://www.saraya.com/
SARAYA

第14回四国学校保健研究大会

四国学校保健研究大会等実行委員会



第14回四国学校保健研究大会・第36回四国養護教諭研究大会・第10回四国保健主事研究大会を平成13年8月21日・22日の両日、四国4県から約700名の参加者のもと愛媛県松山市において開催した。

本大会は、四国4県が持ち回りで、隔年開催しているものであり、3つの大会を、1日目が四国学校保健研究大会、2日目は四国養護教諭研究大会と四国保健主事研究大会に分かれて開催してきた。

しかし、最近、保健主事を兼ねる養護教諭が多くなったため、2日目の両大会を合わせ、小、中、高・盲・聾・養護学校の3つの部会で実施した。

今大会は、前日、台風11号の接近に伴い、運営面の支障や参加予定者の足止めなどが危惧されたが、講師やシンポジストの先生方が、予定を早めて来県してくださるなど配慮をいただき、大きな支障はなかった。

大会のテーマは「生涯にわたり、心身ともに健康でたくましく生きる児童生徒の育成」、サブテーマとして「現代的課題に対応する健康教育の推進」と掲げ、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の育成に視点をおいて開催した。

記念講演では、女子栄養大学三木とみ子教授が「子ども達から広がるヘルスプロモーション」と題し、これからの健康教育がどうあるべきか講演をいただいた。その中で自己教育・自己実現型の健康教育、生きる力を育む健康教育など、前向きな取り組みが必要であり、やがてその取り組みは子ども達を育て周りを変えていくことを、豊富な実践を交えながら熱く語られた。

シンポジウムでは、「健康の現代的課題に対応する学校・家庭・地域の取組と連携のあり方」について、それぞれの立場で提案し、お互いの本音を交えた意見交換が行われた。会場からも積極的に質問が出された。特に、学校と関係機関については、日頃から連携をとっておくことが必要であり、その場合は両者とも一人でなく複数での対応が望ましいなど、今後のあり方について協議された。

2日目の校種別研究発表は、小学校、中学校、高・盲・聾・養護学校の部会で3名の先生方に発表をしていただき、その後研究協議を行った。

小学校部会では、身体活動の大切さを身体活動量と大脳活動水準からとらえた取り組み、養護教諭としてライフスキル学習を積極的に取り入れた保健教育、歯・口の健康づくりを通してライフスキルを育む学校などの取り組みが発表された。

中学校部会では、来室したい生徒が自由にくることができる保健室経営、養護教諭として総合的な学習の時間などへの積極的な参画、養護教諭の専門性を生かした保健室相談活動などの取り組みが発表された。

高・盲・聾・養護学校部会では、性的行動が活発化している生徒達にHR活動、文化祭などを通じた性教育、高校期における歯科指導、生徒一人一人の実態に応じた聾学校での保健指導などの取り組みが発表された。

今大会を通して、参加された皆様は、健康の現代的課題にどう取り組んでいくべきか、それぞれの連携はどうあるべきか、わずかながら糸口が見えたのではないかと期待する。

終わりに、御協力いただいた関係各位に感謝申し上げるとともに、2年後の香川大会では、すばらしい実践が発表されることを願って報告といたしたい。

学校・家庭・地域で育てよう　健康な子どもたち
第52回関東甲信越静学校保健大会で熱心な研究協議

第52回関東甲信越静学校保健大会埼玉県実行委員会事務局長
小　松　智　子

標記大会が、去る8月23日、24日に、埼玉県さいたま市の埼玉会館を主会場として、1000余名の学校保健関係者の参会のもとに盛大に開催されました。

本大会は、学校保健関係者である学校医、学校歯科医、学校薬剤師や校長、教頭、養護教諭、保健主事、教育委員会関係者が一堂に会して、幼児・児童・生徒の心と体の健全な発育・発達を目指し、健康教育の当面する課題について研究協議し、その具体的な対応方策を究明するとともに、健康教育の充実と発展に資するため開催するものです。

第52回の本大会は、「自ら学び、自ら考え、判断し、よりよく健康問題を解決する子どもの育成」を主題に掲げ、第1日目の全体会は、開会式、基調講演、シンポジウム、第2日目は、6課題12協議題を設けて、班別研究協議会が行われました。

第1日目の日本体育大学大学院吉田瑩一郎教授の「求められる健康な子ども像―こんな子どもに育ってほしい―」と題する基調講演では、はじめに、健康の考え方と子どもの健康問題を挙げ、求められる健康な子ども像を多面的に捉え、学びがいのある健康な学校づくり、学校保健委員会及び地域学校保健委員会の重要性について提言されました。

次に、シンポジウムは、基調講演を受け、「学校・家庭・地域で育てよう健康な子どもたち」をテーマに、学校医の立場から中村泰三氏、校長の立場から柿沼松江氏、PTAの立場から新井裕史氏、養護教諭の立場から仁井田幸江氏、行政の立場から小松智子がそれぞれ提案し、コーディネーターの吉田瑩一郎教授にまとめていただきました。

特に、埼玉県学校健康教育指針についての話題が印象に残りました。

第2日目の班別研究協議会では、主題に沿って、学校保健、保健教育、エイズ教育、心の健康、学校歯科保健、安全教育の6つの班でそれぞれ協議題を設け、2～3人の御提案をいただきながら、各班参加者による熱心な研究協議が行われました。

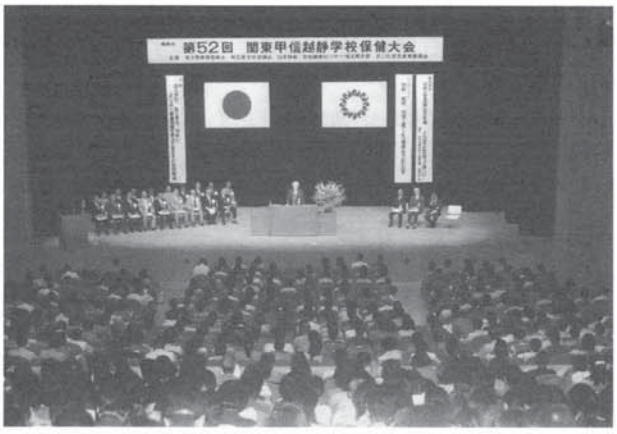
2日間の大会をとおし、学校健康教育の推進に当たって、学校や家庭、地域、関係機関の連携・協力が不可欠であることを改めて痛感させられました。

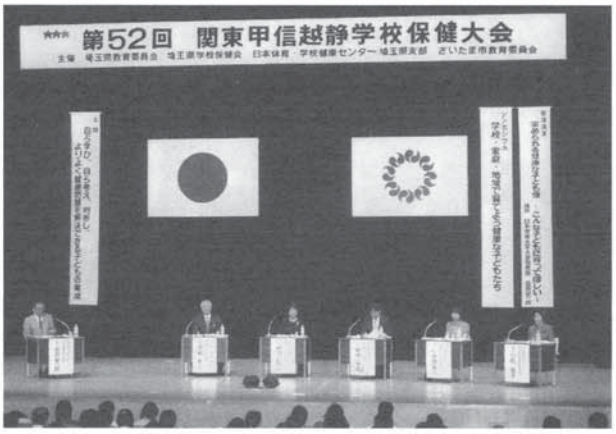
なお、同時に開催された職域部会では、学校医部会、学校歯科医部会、学校薬剤師部会ごとに、シンポジウム等の研究協議や情報交換等が行われた有意義な大会となりました。

本大会に参加した学校健康教育関係者が、その成果を各学校の教育活動に生かし、それぞれの立場で、さらに健康教育を充実・発展されることを期待しております。

最後に、大会に参加いただいた皆様の御協力によりまして、埼玉大会が成功に終了できましたことに対し、改めて感謝申し上げますとともに、皆様の御健勝を心より祈念し、大会の開催報告といたします。

なお、来年度は東京都において、第53回大会が開催される予定です。





平成13年度全国養護教諭研究大会
養護教諭制度60周年記念大会

群馬県教育委員会事務局保健体育課　指導主事　高　橋　慶　子

標記大会が、群馬県前橋市において7月26日・27日の2日間にわたり開催されました。

21世紀最初の本大会は、養護教諭制度60周年を記念する大会となりました。「21世紀に飛躍する養護教諭からのメッセージ―しなやかに生きる力をはぐくむ健康教育の推進―」を主題に掲げ、全国から1700余名の養護教諭及び学校保健関係者の皆様をお迎えし、シンポジウムや部会別研究協議を行いました。

＜第1日目（全体会）＞

開会式では、文部科学省上原哲官房審議官が「心身両面からのケアを行うことができる養護教諭の役割が一層重要になっている」と遠山文部科学大臣からのメッセージを代読されました。日本学校保健会矢野会長は「子どもたちの健康問題は多様化し、それにあわせて養護教諭の対応が広範囲になっている」と挨拶され、小寺群馬県知事からは「孤独感を感じている子どもの味方になってほしい」との養護教諭へのメッセージがありました。

また、学校保健功労者文部科学大臣表彰式も執り行われ、学校保健活動の普及と向上に功績のあった254名が受賞されました。

午後から行われたシンポジウムは、「養護教諭制度60周年を記念して、21世紀に飛躍する養護教諭の役割」と題し行われました。女子栄養大学の三木とみ子教授が基調講演を行い、子どもの健康づくりを担う養護教諭の役割や教育の場としての保健室の重要性を述べました。これからの健康教育は、生涯の健康として縦につながり、さらに地域の健康つくりとして横に広がる役割を担うものであることや保健室を軸としたヘルスプロモーションの展開を期待するとの熱いメッセージがありました。そして養護教諭がアイデンティティを確立し、自分が養護教諭のよさを認識することが大切であるとエールを送りました。

その後、国立公衆衛生院の高石昌弘顧問・名誉教授をコーディネーターに迎え、4名のシンポジストから提言がありました。

養護教諭養成にあたっている弘前大学の盛昭子教授は、養護を掌るとはどういうことか基本に戻って子どもと関わることや子どもとの関わりの中で気づきを大切にした養護実践を積み重ねること等、養成課程の現状とあわせて提言されました。

高崎市学校保健会の重田精一会長は、各学校の健康教育の核となっている学校保健委員会の活動状況を報告し、さらに理解と信頼を受ける養護教諭であって欲しいと期待を述べられました。

養護教諭出身の管理職として大阪府立河南高等学校の森川英子校長は、大阪府内の管理職を対象とした養護教諭に関するアンケート結果を報告し、管理職が養護教諭をバックアップし、子どもたちが安心して一日が過ごせるような体制づくりが重要であると指摘しました。

全国養護教諭研究協議会の阿部伊織会長は、トータルコーディネーターとしての役割を持つ専門職としての企画力、実行力、調整能力が求められていることや養護教諭を取りまく諸条件の整備に向けての取組などを提言されました。

会場からは、養護教諭の役割や養成課程、複数配置、授業へのかかわり等について幅広い意見が交換されました。

＜2日目＞

5部会9分科会場において、シンポジウムや研究発表・研究協議を行いました。

第1部会
養護教諭の専門性を生かした保健学習や総合的な学習について

第2部会
健康の現代的課題（心の健康、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育、性・エイズ教育）への対応について

第3部会
養護教諭による健康相談活動について

第4部会
学校の特殊性に応じた健康の現代的課題（生活習慣の確立、性教育）への対応について

第5部会
学校保健委員会について

熱心に情報交換や研究協議が行われた後、コーディネーターや講師の方から21世紀の養護教諭の役割等について提言や講義をいただき、指導助言の方からは健康教育推進のための適切な助言がありました。実り多き2日間となりました。

本大会の開催にあたり、ご指導・御協力をいただきました文部科学省をはじめ関係の皆様方や御参加いただきました皆様方に心より感謝とお礼を申し上げます。

全国学校保健主事研究協議会東京大会を終えて

全国学校保健主事会会長　鈴　木　守　雄

今年の夏は熱かった。猛暑という言葉がぴったりだ。会場のオリンピック記念青少年総合センターの植え込みのつつじが、ところどころ枯れていた。水不足も心配だ。

東北からの参加者は、「東京は熱い。テレビ報道どうりですね。」と汗を拭いた。関西からの参加者は、「東京は少し涼しい。大阪はもっとだよ。」と言いながら汗を拭いた。まさに全国大会である。

学校保健功労者表彰の後、文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課の戸田芳雄教科調査官から、基調講話をいただいた。

「保健主事としてヘルスプロモーションの考え方を参考に、さまざまな活動（特別活動、総合学習等）や教科指導の中で子供たちが「健康」について主体的に学ぶことができるように工夫して欲しい。また、各学校における様々な健康課題について実態を把握し学校保健委員会の開催と、学校保健計画作成上のコーデネイターとして活躍して欲しい。安全教育について、「安全管理」と「開かれた学校」は反するかとではない。安全教育に関する指導資料を、防災に関することを盛り込み9月中に発刊予定です。」と講話をしめくくられた。

記念講演の（財）日本学校保健会本吉鼎三顧問は、「学校保健については学校全体で総力をあげて取り組んで欲しい。学校医は、医療を通じ教育を担う者として積極的に利用して欲しい。そのためには、養護教諭と学校医の連携は言うまでもないが、保健主事と学校医の連携も密にしていく必要がある。また、他の職員との調整役として活躍いただきたい。教育問題の影に健康問題あり。」と強調された。その後、スライドを上映しながら、現代の子どもの健康問題について説明され、学校保健に対して、エネルギッシュな講話をいただいた。

『自ら守り育てる心とからだ』の標題にそった研究発表は、保健主事として日々の保健活動の実践を通した内容で、今時の発表はコンピューターを駆使したものがあり、実行委員は、最新の視聴覚機器と格闘し、思いどうりにならず発表者に助けられたと言う場面もあった。その後、課題別に分かれ、発表の補足説明があり、司会者を中心に、日頃の問題課題となることについて話し合い、指導助言者から解決法などのご指導やアドバイスをいただいた。

JES

「靴原病」　足と靴のはなし（1）

耳慣れない言葉ですが、文字通り靴が原因の"病気"のことです。外反母趾や、ハンマートゥといった足指の異常が、一般によく知られていますが、それだけではありません。間違った靴を履くことにより、疲労骨折や運動靴皮膚炎、血行不良や不定愁訴等がおこり、健康に害を及ぼすことになります。これが"靴原病"なのです。

1988年の第二回靴医学研究大会（石塚忠雄会長）にて、アメリカのロッシュ博士が「子どもの足は成長過程にあるので、靴に気をつけないと、様々な障害を誘発し、一生苦しむような問題につながりかねない」と強調されたように、子どもの靴選びは非常に重要なことなのです。かかとがしっかり固定して5本の指が動かせる靴が、足の筋力、足指の握力を強くし、立派なアーチを作り、足の健康な成長に欠かせない条件です。

JESシューズは、靴原病予防に有効な、スクールシューズです。

21世紀の健康

日本教育シューズ協議会
岡山市西川原1丁目11番6-1号
〒703-8258　TEL.（086）272-5463

Q&A —学校保健活性化のための—

神戸大学教授　石川哲也

Q 最近、合法薬物という言葉を耳にしますが、合法薬物とは何ですか。

A 合法薬物という言葉は、俗語であり正式な用語ではありません。

薬物乱用という概念は、化学物質や薬物を本来の目的・用途と異なった使用方法で使用することであり、乱用される薬物はすべて中枢神経系に作用し、目的としては、気分を変えたり、幻覚を見たりして現実から逃避するためなどに使用されます。また、法律によって厳しく取り締まられています。

しかし、気分を変えたり幻覚を見たりすることが可能な薬物でも法律で規制されていないものがあります。このような薬物をマスコミや一部の人が合法薬物といっていることがあります。

たとえば、キノコの類には幻覚や中枢神経に異常を起こすものがあることはわが国でも古くから知られています。ムスカリンやメスカリンと呼ばれるいわゆる毒キノコの成分による死亡事故をはじめとする中毒事件は、わが国でも多く起きています。また、法律に抵触しないように化学構造を変化させたものがあります。

これらは意図的に法律の網の目をのがれるように操作されたものであり、あたかも薬物に対して興味をそそるような働きかけをしているのが全てといってもよいでしょう。しかも、法の網をくぐって、使用してもよいように宣伝することもあります。

厚生労働省は「脱法薬物」と呼んでいます。まさに、悪意によって法の目を逃れようとしているからです。また、全く薬理作用がないものもあります。

このような薬物は、テレビなどでも時々取り上げられるため、薬物乱用防止教育を行っているときに、生徒から質問を受ける場合があります。

学校において薬物乱用防止の指導を行う場合は、合法、違法にかかわらず、中枢神経に作用するような薬物を医師や薬剤師の指導によらないで使用してはいけないとの厳しい考え方で臨む必要があります。合法だから使用するかどうかは個人の自由であるという考え方は間違っているとの認識を児童生徒に持たせる必要があります。

虎の門（60）

裸足（はだし）でつくる基礎体力

大学の空手部の監督をしている友人が「空手の優秀な高校生をスカウトしても練習や試合で簡単に骨折する」といっています。

全国各地から優秀な人材を集めているのですから運動に関する基礎体力は充分にあるはずです。

私達の子どもの頃は上野から後楽園まで歩き、電車代を節約しアイスキャンディを買い、休みには早朝から夕食まで上野の山、不忍池と何処でも歩き回りました。

その時履いていたのは下駄や底の薄い運動靴、時には裸足で飛び回っておりました。

そのころは今程遊び道具もなく、足を充分に保護するスポーツシューズもなく、地面との接触が限りなく多い状態で多くの時間を外遊びに費やしていた事が幸いして平衡感覚も、反射神経も子どの頃より自然と身に付きました。そのために相当乱暴をしても大きなけがをする事がありませんでした。この子どもに培う体力が本当の基礎体力といえないでしょうか。

（編集委員　内藤　裕郎）

カワイ肝油ドロップ

発育期に欠かせないビタミンが凝縮されたカワイ肝油ドロップは、「わんぱく」を応援します。

ビタミンA・D＋ビタミンC

ビタミンA・D＋カルシウム

製造 河合製薬株式会社　販売 河合薬業株式会社
東京都中野区中野6-3-5　☎03-3365-1156(代)

学童の集団検尿に、エームス尿検査試験紙。

エームス尿検査試験紙
ネフロスティックス®-L
体外診断用医薬品

バイエル メディカル株式会社
東京都渋谷区恵比寿1丁目19番15号
販売元：
三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3丁目5番1号
JU2099-S

いつも暮らしの中に
LION

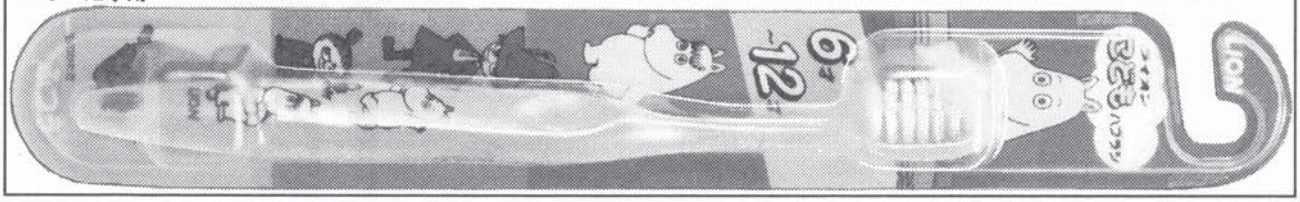
食べたらみがこう！

食べたらしっかり歯をみがいて、ムシ歯を防ぎましょう。

推薦
日本学校保健会

ライオン
こども
ハブラシ

●6～12才用



からだに必要な水分とイオンの補給に

(財)日本学校保健会推薦

ポカリスエット

商品に関するお問合せは
大塚製薬株式会社 03-3292-0021
ホームページ http://www.otsuka.co.jp/

「ポカリスエット」3ケース抽選で10校様へ無料進呈します

学校名、住所、TEL、ご担当者名を記入の上、官製ハガキにて下記「健康と料理社」宛てにご応募ください。

※当選発表は発送をもって代えさせていただきます。
応募〆切：平成13年10月31日

応募に関するお問合せは：健康と料理社　東京都千代田区九段南 4-7-19 TEL03-5275-6838／担当 斉藤

発行（財）日本学校保健会　矢　野　　亨　〒105-0001　東京都港区虎ノ門2—3—17 虎ノ門2丁目タワー6階
電話　03（3501）3785・0968
FAX　03（3592）3898
頒価1部200円（送料共）